



ワイズメンズクラブ国際協会西日本区

2024.2.25 発行

## 中部 部報

部長主題 『みんなで参画』

中部部長 松本勝

ワイズメンズクラブ中部の活動も上半期を終えました。各事業主查の皆様やクラブ会長の皆様の思いや活動状況を寄せて頂きました。中部各クラブの特色ある活動ぶりが大変良く分かるもので、寄稿して下さった皆様に改めて感謝です。ありがとうございました。

中部としてとしては、名古屋東海クラブのホストのもと、中部部会を9月23日(土・祝)アイリス愛知にて開催致しました。中部5クラブより45名、西日本区21クラブ41名、合計86名の参加を頂き無事終了致しました。

西日本区の現在の大きな課題は①ラオスにYMCAを開設する準備を進めること②第31回アジア太平洋地域大会を2025年8月1日～3日熊本にて開催するための準備を進めることだと思っておりますが、中部としての最大の課題は6月8日(土)に開催予定の第27回西日本区大会を成功させることです。今期の部長のスローガンは『みんなで参画』です。単に参加するのではなく、みんなで積極的に準備し、当日もホストとして自覚を持って臨みたいという願いを込めたものです。服部委員長を中心に急ピッチで準備が進んでいますが皆様の積極的な参画をお願いします。

中部の現況は半年報によれば、2名の退会、2名の入会があり70名で変わりませんが、1名でも新しいメンバーを獲得したいと願っています。勿論ワイズメンズクラブはその組織を維持する為に存在するものではありません。各クラブのメンバーが活動と交わりを通して自身の成長が感じられる為にあるのではないかと思います。そのためには、充実した例会、楽しい例会、楽しい交わりのある例会、やって良かったと思える活動、そしてメンバーが知人を誘いたいと思えるようになっていく。そんな地道な日々の積み重ねこそ最重要だと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



## YMCA サービス・ユース事業報告

YMCA サービス・ユース事業主査  
阿部一雄(名古屋グランパスクラブ)

名古屋 YMCA への YMCA サービスとして名古屋地区では下記の2つのテーマを軸に活動を行っています。今年度もこの2つを中心に活動してきており、その様子を報告致します。

### ① 学童キャンプ支援

名古屋地区ワイズと協力して毎年11月に開催されるチャリティーランの支援金を使い、夏に日和田キャンプ場で学童へ通う児童を中心に学童キャンプが開催されています。2023年度も7月24日(月)～29日(土)と7月31日(月)～8月5日(土)の2回開催され、合計52名の児童が参加しました。

毎年名古屋グランパスクラブでは食事づくりの支援をしてきました。朝昼晩と三食つくるのも大変ですが、何より人員の配置、献立を考えるのが大変です。しかし、つくった食事を残さず全部食べてくれる子供たちの笑顔を見ているだけで疲れも吹っ飛びます！

名古屋グランパスクラブメンバーとその家族も高齢化が進み、いつまで支援できるかわからない状況となりつつありますが「気力が続く限り食事支援をしていく」とクラブ内では話していますが、各クラブに今後は食事支援の協力依頼を行う必要があるかもしれません。

また、日和田高原で収穫されたコーンをワイズコーンとして販売し、得られた支援金を学童支援金として名古屋 YMCA へ寄贈しています。

### ② 日和田キャンプ場整備支援

日和田キャンプ場整備計画に基づく改修を支援しています。整備計画を支援する前に、名古屋 YMCA 中村総主事から整備計画についてお話をお聞きし、各クラブの支援体制の参考にしました。各クラブなどから頂いた支援金を使い、長年汚く臭かったために評判の悪かったメインロッジのシャワー室とトイレ改修を YMCA 職員と協力し、計画から実施まで支援を行いました。見違えるほどにシャワー室とトイレが改修され使いやすくなりました。

日和田キャンプ場は積雪の多い岐阜県高山市に建てられており、10月～5月まで閉鎖しています。その間雪から窓を守るため、木製の雨戸を閉めています。それが痛んでいることがわかり、緊急性を要することから、名古屋地区のクラブなどに声を掛けて費用を募り、改修を施すことになりました。

#### 上半期 YMCA サービス・ユース事業

\*YYY フォーラム 2023年9月9日(土)

【於】KKR ホテル名古屋

\*平和の集い 2023年9月3日(日)

【於】金沢独立キリスト教会



## ワイズの原点

### 地域奉仕・環境事業主査 橋爪良和(名古屋東海クラブ)

ワイズ西本区の地域奉仕・環境事業は、「奉仕活動を通じて YMCA の活動を支援する」、「ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する」と、「西日本区定款」の最初に記されている通り、ワイズ活動の根幹となる活動です。現在、会員数の減少や高齢化が進む中で、残念ながらクラブとして組織の維持にエネルギーを割かれ、地域事業に手が回らない状況も見られます。しかし、地域社会に貢献し、そのことを通じて自己研鑽と多くの仲間との交流を深めることは、まさに「愛と奉仕の実践を目指して努力する」ワイズメンとしての目標そのものだと思います。力不足を嘆かず、諦めず、小さな行いを皆さんとともに重ね、ワイズの活動を続けていけたらと考えます。

部主査としての役割を果たすことができない言い訳ではありませんが、聖書にある「自分の利益ではなく、他人の利益を追い求めなさい」という言葉に添い、日常を過ごし、社会活動を行うことが地域に貢献するのであれば、そのこと自体が大きな地域奉仕につながるのではないのでしょうか。そうした志をもつ仲間が集まり、働くワイズメンクラブは社会の財産ともいえます。少なくとも、そうしたプライドを持ち続け、これからもワイズメンでありたいと思っています。

#### 上半期地域奉仕・環境事業

\*クリスマスキャロル in タワーズガーデン 2023年12月9日(土)  
【於】名古屋駅タワーズガーデン

\*愛美の会へのクリスマス奉仕活動(名古屋クラブ) 2023年12月16日  
【於】NPO 法人愛美の会

\*クリスマスカードコンテスト(名古屋東海クラブ) 2023年12月19日~25日  
【於】市民ギャラリー栄

## 上半期を振り返って

### 国際・交流事業主査 小泉宗政(とやまクラブ)

昨年末に牧野万里子国際・交流事業主任が急逝され、小田哲也(福岡中央クラブ)直前事業主任がその任につかれたことは大きな出来事でした。

国際・交流事業方針ではSTEP(ユースの短期交流)やiGO(海外とのインターシップの派遣・受入れ)への積極的参加や、IBC(国際兄弟クラブ)・DBC(国内兄弟クラブ)の交流推進などが示されていましたが、中部の上半期の各クラブの活動には残念ながら直接的な動きは見られませんでした。

ワイズメンズクラブの醍醐味は人との交わりです。クラブ内での交流は勿論ですが、国内の他クラブや海外のクラブとの交流はひと味もふた味も違うものがあります。また形式にとらわれない様々な取り組みがあっても良いのではないのでしょうか。上半期はYMCAもワイズも何かと行事が多くありましたが、下半期はじっくりと各クラブの活動に取り組めるのではないかと思います。各クラブでIBCやDBCに積極的に取り組んで下さることを期待しています。



## みんなで仲間を増やしましょう

### EMC 主査 渡辺真悟(名古屋クラブ)

先期は南山クラブがワイズメンズクラブから離脱するという大変残念なことがありましたが、先期末から今期最初にかけて3名の新入会員を迎え73名で中部はスタートしました。その後年齢その他の理由で退会者が2名いらっしゃいますので現時点で71名が中部の現有会員数です。

期首には西日本区からの依頼もあり各クラブにEMC事業計画を立てて頂きました。その各クラブの大きな目標と言うかスローガンは以下の通りです。

- 金沢クラブ : 多くのゲストを交え、例会を楽しく
- 名古屋クラブ : 入会候補者の掘り起こしと丁寧なフォローをしよう
- 東海クラブ : 社会貢献活動を一緒にできる仲間を増やそう!
- グランパスクラブ : 会員増員
- とやまクラブ : チャーター時目標の会員20名を目指そう

またその行動内容の主なものは重複を除いて以下の様なものです。

- ・ 暖かい交流と楽しく充実した例会を心掛け、知人を誘いやすくする
- ・ メンバーの友人関係を例会や各種イベントに誘い スピーカーにもなってもらう
- ・ 例会に来てくれたゲストは 入会候補者としてその後丁寧なフォローを行う
- ・ SNS を活用した広報活動の継続と充実
- ・ EMC イベントの開催

この中で新しい試みとしては名古屋クラブが始めたSNS (FACEBOOK) は 見る人のワイズメン以外への広がりが現状では今一つです。一昨年・昨年と行ったYYフェスティバルはYMCAとの交流プラスEMCフェスティバルの新しい試みでしたが 諸般の事情で今年は開催の見通しが立っていません。そして会員の増員目標は中部5クラブで合計すると17名とかなり意欲的な目標を立てて頂いたのではないかと思います。残念ながら目に見えた成果はまだ得られていない状況です。しかし一方クラブの例会に来ていただいたゲストの数は毎回平均で3~4名、多いクラブでは5~6名ほど居て 勧誘に努力されている様子が伺えます。

それより何よりずーっと減少傾向にある会員数を皆さんが肌で感じていて何とかしなければと思い それぞれ色々と行動して頂いていることと思います。なかなか状況は厳しいですが 何とか会員を増やしたいという思いは皆さんの間で共有されていると思いますので より一層それを行動に結び付けて頂いて一人一人が友人を誘い、ゲストを招き、会員を増やす活動を続けていきましょう。



## 金沢クラブ 上半期の活動報告

金沢クラブ会長 山内ミハル

前期末、高齢で通院のため1人が退会し、3人のメンバーが、今期から仕事や健康の問題のため功労会員になったため、実働会員4人でのキックオフとなりました。

4人のうち一人は24歳の若者で、仕事の関係で今期一度も例会に参加できていません。残り3人は92歳、88歳、86歳という超高齢者です。しかし、ワイズ活動を楽しむ気持ちだけは若者に負けません。唯一の光は、昨年7月若い女性メンバーの新入会員を迎えたことです。例会には彼女のパートナー（夫）と令息（大学生）も参加してくれています。おかげでクラブの活動に活気が出ました。今期初めからゲストも交えて、毎月欠かさず第1例会、第2例会が持たれています。

7月：西日本区理事深谷ワイズと西日本区書記清水ワイズを迎えて、新会員の入会式が行われました。仕事の関係で2年後には入会したいと言ってくれている若い女性をはじめ、日頃よく参加してくれているゲストを加えて、賑やかなキックオフとなりました。

8月：納涼例会。牧師・知人・友人、家族を招いて楽しみました。

9月：「平和の集い」を、Yサ・ASF 資金援助をいただき金沢YMCAと共催。100名を超える参加者を得て成功裡に終えることができました。

10月：手分けして注文を取ってきた十勝ポテトの入荷と販売。一度購入した人たちからは、「おいしい！」と評判が良く、「今年はいつ手に入るの？」と待っているファンが多くいます。

10月：シングルマザーの会の母子を招いての芋煮会。金沢の山手にあるスポーツ広場のバーベキュー場で、炉に子どもや学生が割った薪をたき、大鍋に、福井県の大野の里いも、能登牛の肉、こんにゃく、ネギを酒としょうゆ、砂糖で煮ます。一方、飯盒でご飯を炊きます。

芋煮の残り火で、金沢の五郎島のサツマイモで焼き芋をつくりました。その間子どもたちは広場のロープ滑りやシャボン玉を楽しんでいました。

12月：クリスマス例会。教会の牧師の説教で礼拝を守ったあと、ノンアルコールで乾杯、食事に続いてゲームとワイズのフラを楽しみました。

1月：とやまクラブとの合同例会を計画していましたが、元旦の能登半島地震の被害甚大のため延期とし、使用済み切手の整理を行いました。



## テーマ「人生の喜びを大いに分かち合おう ワイズと共に！」

名古屋クラブ会長 戸田真二

名古屋クラブの会長となり二期目を迎えました。一期目はコロナ禍が続き、共に食事もとれず、例会はZoom参加が多くなり、交流を深めることもままならない状況がずっと続いていました。そして今期はコロナ禍の収束から、長いトンネルを抜け、暗闇から解放されたイメージをテーマとしました。喜びを共に分かち合えるワイズ人生にしよう！

「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」ピリピ人への手紙4:4 楽しい例会を、みんなが笑顔になれる例会を。これが原点です。更にそこにあなたは誰と一緒にいるのか？ここが大切なポイントであるように思います。私たちの隣人は誰なのか？自己満足にとどまらず、多くの人を巻き込み、喜びを分かち合う場を創っていくこと。これがワイズの最大の魅力ではないでしょうか。ワイズの高齢化や会員数の減少は今後も進むと思われます。しかし、クラブの存続や発展は、いかに喜びを広げられる同士を増やしていけるかではないでしょうか。まず、自分が楽しむこと。楽しい例会を創ること。そしてメンバーひとり一人がホストとして、新たなゲストを迎えること。こんな思いで私は祝いの席では、乾杯の前に「いつも 酒（しゅ） にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。リジョイス！」と歌います。今期より例会での食事も再開しました。毎回おいしいお弁当を工面しながら探しています。そして、全員がホストであることを合言葉に、この瞬間（とき）を楽しみ、未来へつなげて行きたいと心より願っています。どうぞ今後ともよろしくお願ひ申し上げます。





# 活動の振り返りと今後の方針

名古屋東海クラブ会長中江正典

## 1. 2023年の活動の振り返り

2023年7月に会長交代した際に、会長主題として社会に貢献できる奉仕の精神でワイズの活動に取り組んでいきたいという思いを込めて「原点回帰 ～All for Service～」とし、ワイズメンズクラブのモットーである奉仕の精神でクラブ活動を開始しました。

前期まではコロナでクラブの活動も制限されることもありましたが、コロナ禍も明けたこともあり、コロナ前に行っていたYMCAや地域社会の活動に積極的に取り組み、若者や地域の方々との交流の再開し、積極的に取り組んで参りました。

まず、ボランティア活動では、チャリティラン、南山幼稚園バザー、クリスマスキャロル、クリスマスカードコンテストの支援等を通じて皆さんへ笑顔を届けました。その際、メンバー一人ひとりが温かい思いやりと人間愛を示し、地域との絆を深めることができました。

また、2023年は中部部会のホストクラブとなっており、9月23日にアイリス愛知で第27回中部部会を開催し、「ザ・ぼんち」の里見まさと氏に「戦艦大和と乗組員」と題してご講演を頂きました。西日本区の多くの方にご参加頂き盛況な会にすることができました。

一方、名古屋東海クラブ独自の活動としては、コロナ禍の最中も極力第1例会を対面で開催し、様々な業界の方から卓話として貴重なお話を頂いていますが、12月は家族の方にも参加頂き、クリスマス祝会をラスース・ANNで開催し、家族、クラブメンバー、との絆、愛をお祝いすることもできました。

## 2. 2024年の活動および今後の方針

2024年は元旦に発生した能登半島地震の被災地での復興支援や災害予防に向けて、支援要請もあり、可能な支援に取り組むこととし、義援金の募金活動への支援を行って参りました。引き続き東海クラブでもご協力出来るところは積極的な支援を行っていきたく考えています。

2022年～2023年は当クラブの有力メンバーの方が亡くなられたり、施設に入られたり、メンバーの減少が深刻な問題となっています。ボランティア活動を継続していくには、同じ考え方をを持ったメンバーを増やしていく必要がありますので、入会サポートを行い、ボランティア活動の輪を広げる取り組み行っていきたく考えております。



## 2023.7～2024.1 上半期の振り返りと、今後の課題

### 名古屋グランパスクラブ会長松原行謙

Let's take it easy! 気楽に行こう! 気負わずに! が、しかしたゆまず努力をしよう! を、スローガンにこの一年が始まりました。あらかじめ決めた日程表と、各自の役割、予算案にのっとり、肅々と名古屋 YMCA およびワイズメンズクラブ西日本区と歩調を合わせ、各行事を順調にこなして参りました。名古屋 YMCA の行事サポートとしては、日和田キャンプ場のオープンニングから学童キャンプ・クロージングまでのサポート、名古屋 YMCA 大会、国際協力街頭募金、南山バザー、チャリティーラン、チャリティーゴルフ、クリスマスキャロルというように、コロナ禍後に本格化した行事に積極的に取り組んできました。また、名古屋 YMCA 日本語学院の生徒さんに対しても諸々の活動サポートを行って参りました。

名古屋グランパスワイズメンズクラブの例会活動としては、名古屋 YMCA 本館にて8月と11月にそれぞれ「お金と仲良く暮らす方法」・「多文化共生にかけるおもい」と題し有意義な卓話を行いました。また、8月に名古屋クラブさん主催の「納涼ナイトクルーズ例会」が開催され、多くのワイズ関係者と交流を持てたことは、特記すべき事項です。

ただし、わがクラブは少人数のクラブであり、なおかつ特定の参加者に活動が偏っているという前期の反省は否めません。

2024年6月、これまでも準備が進められている中部主催の西日本区大会が成功できるようグランパスメンバーも全面協力で臨まないといけません。また、来年度の中部部会開催に向けてもメンバー一同、よりサポートが必要です。

今後の課題として、名古屋 YMCA の活動の拠点である日和田キャンプ場の活用を如何に活用するか、議論を重ね方向性を探ります。また、ファン作りとして、高根コーンの定着を図りたく思います。活動参加人数の減少をくい止め、会員メンバーのドロップアウトを防ぎつつ、名古屋 YMCA およびワイズメンズクラブ西日本区と協働していくのが難しくとも、達成していかなければならないことであると思います。





## 「富山から世界へ！」”From Toyama to the World” 上半期報告

とやまクラブ会長 川渕映子

とやまクラブの今期の会長主題は、「富山から世界へ！」です。そこで例会のスピーカーは、富山で国際的な活動している方を中心に招きました。以下、上半期の報告を簡単に紹介します。

7月：会長方針として、ベトナム戦争の最中にサイゴンに行き、難民支援をした経験から、今日に至る活動を紹介し、とやまクラブとしての今期の方針と計画を共有しました。

8月：テーマ「ベトナムと日本の平和の架け橋 Bridge として」合同会社 dandan 代表グエン・タン・ダン氏。彼は、川渕が代表をしている NGO「アジア子どもの夢」の活動で来日し、富山大学・大学院を卒業、現在ベトナム人の裁判所通訳や特定技能実習生の支援活動などを行っています。

9月：テーマ「富山での暮らしと小松菜づくり挑戦」スピーカーは、富山 YMCA 福祉会萩浦保育園の卒園児の保護者で「葉っぱ Farm」代表ダルマ・ラマ氏（ネパール人曼陀羅画家）を招きました。

10月：テーマ「スリランカ Y とアジア・第 21 回アジア・太平洋 YMCA 大会（インド・チェンナイ）」、アジア・太平洋 YMCA 同盟スリランカ YMCA 特別顧問として9月1ヶ月間スリランカに滞在した島田書記の報告

11月：シリア人のサリム・マゼン氏（富山ムスリムセンター代表理事）を招き、「文化の違いを超えて平和のために」というテーマで、内戦・難民を経験し、富山に来られた氏の宗教・民族を超えた日本国内外の災害支援の活動の報告

下半期は、元旦の能登半島地震発生により、それぞれのメンバーが支援活動等で多忙を極め、活動の報告が十分できないことをお詫びいたします。清水ワイズも七尾で被災しつつ、西日本区書記として頑張っています。今後ともにご指導ください。

